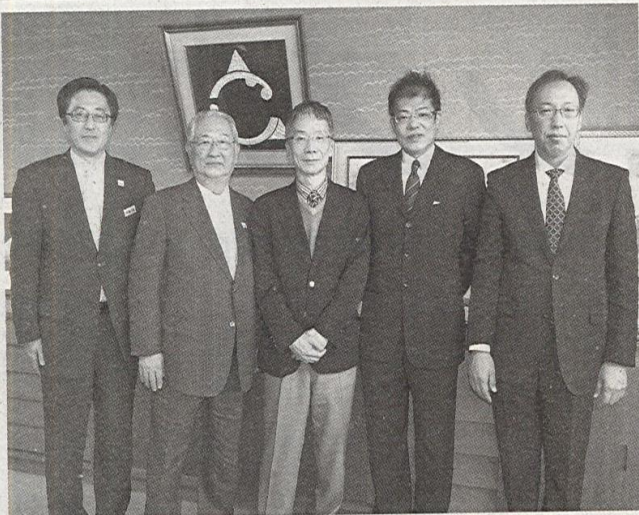


会津若松市との交流促進に期待

150年前の縁 山川浩と中野家架け橋

柏木御坊市長



左から龍神副市長、中野氏、大谷氏、柏木市長、森田課長

幕末の鳥羽伏見の戦いで敗れ、紀州に落ち延びて小松原村(御坊市湯川町小松原)の中吉旅館で命を救われ、その後、同旅館主人の中野吉右衛門と交流を続けた会津藩士で「会津の知将」と称される山川浩ゆかりの品が、16日に中野家子孫から戊辰150周年記念を迎えた会津若松市に寄贈される。これに先立ち、中野吉右衛門のひ孫の中野健氏(64)＝横浜在住＝が12日に御坊市役所を訪れ、柏

木征夫市長を表敬。柏木市長は150年前の縁に感銘し「姉妹都市協定やパートナーシティ協定につながればありがたい」と交流促進に期待感を示した。

山川浩は会津藩国家老家の長男。若くして家督を継ぎ、藩主・松平容保の京都守護職就任に伴って上洛。鳥羽伏見の戦いで敗れ、紀州に落ち延び、小松原村で重病になったところを中吉旅館で主人・中野吉右衛門の母おこうの献身的な治療

看護で命を救われた。紀州藩から敗走兵をかまくまわなように通達が出ている中、危険を顧みず献身的に世話した恩義に報いるため、明治15年に感謝の手紙と大皿(九谷焼)、21年に学事巡視で和歌山を訪れた際に会津塗りのわん、22年の大水害時の見舞い状、見舞金を贈るなど交流を続けた。

この中野家所蔵の品が戊辰150周年を記念して「中吉旅館子孫一同」から会津若松市に寄贈されることになり、16日に中野氏が同市を訪れる。柏木市長名代の龍神康宏副市長、森田誠市教育委員会生涯学習課長、山川浩と中野家との交

流調査に協力した大谷春雄・市文化財保護審議会委員が同行し、室井照平市長を表敬訪問して品物を寄贈。その後、教育委員会文化課と今後の交流について意見交換する。

12日に柏木市長を表敬した中野氏は「父や祖父からも聞いたことがない話で、驚く展開になり私もびっくりしています。先祖と山川浩の交流からいろんな方とご縁ができ、戊辰150周年の記念すべき年に日高御坊と会津の友好親善の架け橋になればありがたい。大谷氏は「御坊市や周辺の町で多くの会津兵を世話し、吉原には会津兵からお礼にもらった刀が残っている。陸奥宗光が藤井で度々泊まり、兄嫁は江川の出であることも最近知った。御坊、日高地方は凄いと感ぜられたということを改めて感じます」と話した。

柏木市長は「本当にいい話だ。明治に戻った気にな

る。こうして郷土の歴史を掘り起こしていただき、本当にありがたい。友好促進は願ったりかなったりの話であり、できれば姉妹都市協定やパートナーシティ協定につながれば」と期待感を示し、同席した龍神副市長、森田課長に「今後の交流につながる話をよろしく」と要請。御坊市は徳島県阿南市とパートナーシティ協定、藤井寺市、近江八幡市と災害相互物資援助協定を結んでいるが、姉妹都市協定はなく、山川浩と中野家が架け橋となった交流促進に期待がかかる。